

成人向




連帶制御過知覚定律

ママが類人豚の男の子を連れてきました。
知り合いのお肉屋さんで売れ残っていたのを
引き取って来たそうです。

類人豚は、人間そっくりの姿をした豚さんです。
知能も人間並みで言葉を話すこともできますが、
基本的には主に食用として流通しているただの家畜です。

ママはこの子を食用でなくペットとして飼育すると
言いました。類人豚としてはあんまり太ってないし
顔も可愛いので、そうするのがいいとわたしも思いました。
母娘二人暮らしのわが家にとって男手として役に立つことが
あるかもしれませんし。
ママはこの子に緒太郎しんたろうという名前をつけました。
由来は言わずもがなでしょう。



若い類人豚のオスは生殖機能が未熟かつ旺盛すぎて、すぐに精子を過剰製造してしまうそうです。放っておくとたまりすぎて精巣が炎症をおこしたりすることがあるので一日3〜4回は排出させないといけません。平日の昼間などママがいない時間はわたしがやってあげないといけないので、ママに射精のさせ方を教わりました。類人豚のおちんちんは人間のものと同じ形をしています。サイズは平均的に人より大きいそうです。ママの手でむくむく勃起したそれは、私も見たことのあるママの彼氏のものより確かに大きいようでした。

※ちなみに、類人豚に一人で自慰をさせることは虐待とされることがあるので、ふつうは勝手に自慰をしないように躰けています。

ママがそれを扱きはじめると、さらに太く硬く
なっていく。先つちよの穴がひくひくと開いて
透明の粘液が流れだしました。

緒太郎ちゃんは、恥ずかしそうに、でも気持ちよさそうに
喘ぎ声を漏らしています。
やがて真っ赤になった先つぽがふくらんでカサのところ
張り出すと、「ほら、もうすぐ出るわよ」とママが教えて
くれました。

緒太郎ちゃんが「で、出ますう！」と叫び、
ぐわっと開いた尿道口からものすごい量の精液が
勢いよく発射されました。
飛び散った精液から、なんともいえないやらしい匂いが
たちのぼって、わたしは何だか変な気分になってしまいました。

その晩、ママと緒太郎ちゃんがセックスをして
いました。
わたしは今まで何度もママが彼氏とセックス
しているところを覗き見したことがあります、
これほど気持ちよさそうにしているママは
初めて見ました。

髪を振り乱し、目の焦点は狂い、
よだれや鼻水まで垂らして快楽に
溺れているようです。
類人豚とのセックスは人間とするよりも
ずっと気持ちがいい、という話を聞いた
ことがあります、どうも本当なのかも
しれません。
ママはもう声を殺すことも忘れ、
何度も何度も
「いく、いくーっ！」と
叫んでいます。

緒太郎ちゃんも必死に腰を振りながら
「また出ちゃいますうーっ！」と言って
腔内射精をしていました。
すでに何度も腔内に放出しているようで
腔口のすき間から精液が大量に溢れ出して
います。

いやらしい匂いが部屋中に充満していて、わたしはたまらなくなつて二人のセックスを覗き見ながら夢中でオナニーしました。



次の日
学校から帰ってくると、緒太郎ちゃんが
せつなそうに「はやく出したいよう…」と鳴いていました。
昨晚のママとのセックスで最後に射精してからもう10時間以上
たっているの、かなり精子がたまってしまっているでしょう。



おちんちんは勃起しきって、
尿道口がひくひく開閉しながら粘液を
吐き出し続けています。



「ごめんね、すぐ出させてあげる！」
わたしはランドセルも下ろさなまま
緒太郎ちゃんのおちんちんを握り、
昨日ママがしたようにしごいてあげました。

「ああ…きもちいいよお…みゆいちゃん…」
わたしの名を呼びながら気持ちよがる緒太郎ちゃん
が可愛くて、はりきってしごき続けると、1分も待たず
「みゆいちゃん、ぼくもう出ちゃいそう……」と
言い出しました。



昨日、飛び散った精液をおそうじするのが大変だったことを思い出し、わたしはとっさにおちんちんの前で口をあけて、「この中に出して！」と言って、大きく膨れた先端をぱくつとくわえました。

緒太郎ちゃんの精液はいい匂いがしておいしいそう……と思うようになっていたので、おちんちんを口に入れることに抵抗はありませんでした。

尿道口に舌先を出し入れして混ぜながらくちびるをカリにひっかけて絞るようにスライドさせます。



「うああ、き、きもちいいよおっ！でるっ、出るう！」と叫びながら緒太郎ちゃんはわたしの口の中に射精しました。どろどろした液体がすごい勢いで流れ込んできて、いやらしい味が口いっぱい広がります。わたしは必死に飲み込みましたが、やはり量が多すぎてほとんどは口から溢れ、床にこぼれ落ちました。それでも昨日よりいくらかおそうじは楽そうです。



「すごいきもちよかつたし。みゆいちゃんありがとう。みゆいちゃんすき！」
緒太郎ちゃんは嬉しそうに抱きついてきてわたしに甘えます。可愛い。

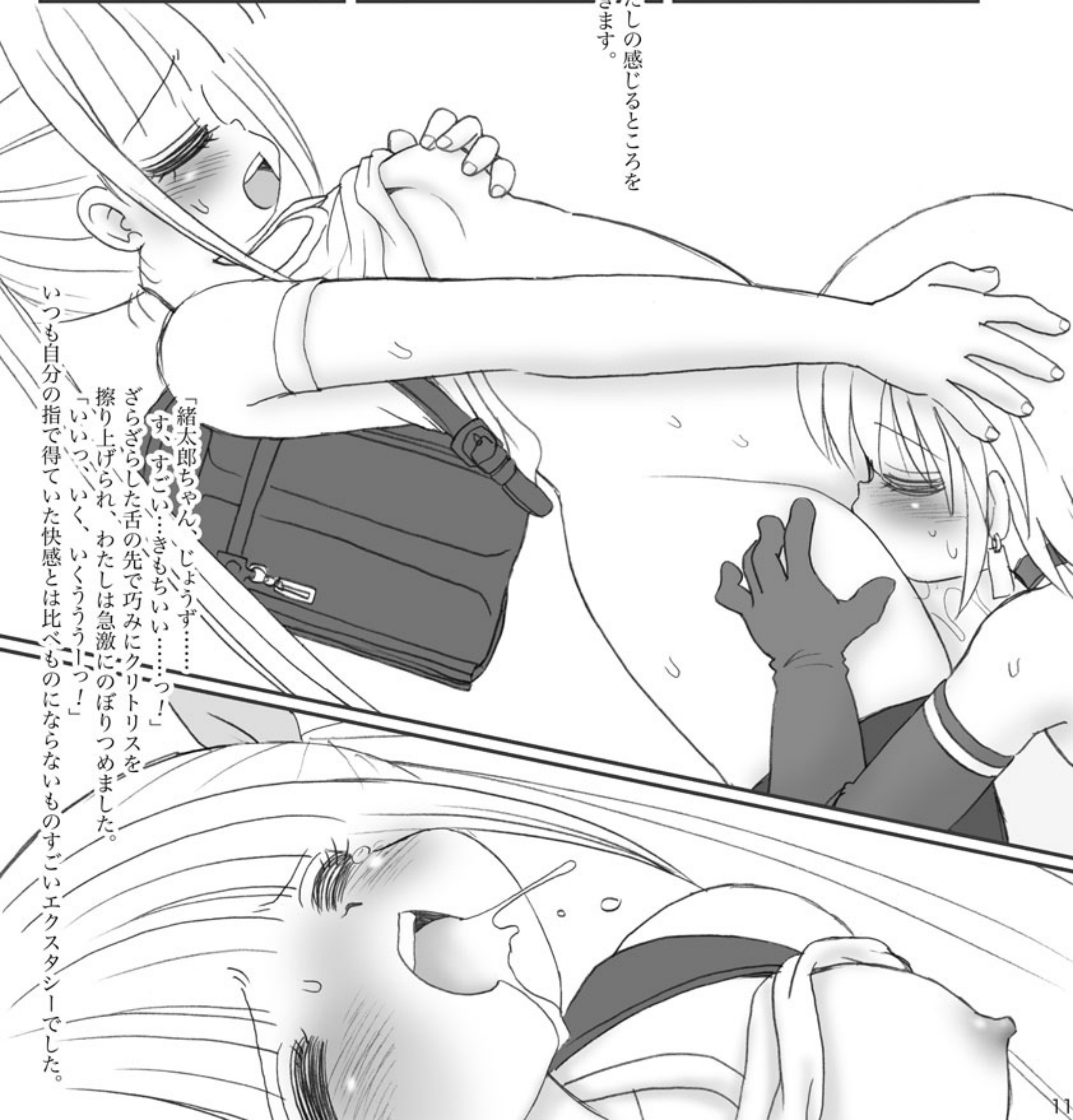
「じゃあ、緒太郎ちゃんもわたしのこと気持ち良くしてくれる…？」
彼の発する淫らな匂いにすっかり欲情してしまったわたしは恥を忘れてそんなことを口走ってしまいました。

愛液でぐしょぐしょになっていた下着を脱ぎ去り、緒太郎ちゃんの目の前で性器を拡げます。いやらしく勃起したクリトリスを剥き出し「ここ……舐めて」と命じました。

彼はとても素直に「うん、ぼくみゆいちゃんのいうことなんでもきくよ」といって、クリトリスに舌を這わせはじめました。



類人豚の舌はとても器用で、わたしの感じるところを的確に探し当てて刺激を与えてきます。



「緒太郎ちゃん、じょうず……す、すごい……きもちいい……っ！」
 ざらざらした舌の先で巧みにクリトリスを擦り上げられ、わたしは急激にのぼりつめました。
 「いいっ、いいっ、いく、いくうううっ！」
 いつも自分の指で得ていた快感とは比べものにならないものすごいエクスタシーでした。

「どうしよう、ぼく……また出したくなってきた……」

わたしの性器を舐めて興奮したのでしょか。たつぷり射精して落ち着いたはずのおちんちんがまたガチガチに勃起していました。

「じゃあ……わたしとセックスする……？」

すっかり淫乱モードに入ってしまったわたしは、勢いにまかせて誘いました。昨夜のママの気持ちよさそうな様子を見て、正直わたしも緒太郎ちゃんとセックスしてみたい……と思っていたのです。

「うん、ぼくみゆいちゃんとセックスしたい……みゆいちゃんのおまんまんの中に精子出していい……？」



わたしはもちろん処女ではありません。

四年生の時から、ママの彼氏たちに何度も

犯されてきました。

なので、実のところ男の人とセックスすることに

少し嫌悪感があります。

「セックスしてあげるから、いい子にしてわたしのいうこと聞くのよ？」

緒太郎ちゃんを寝かせて、その上にまたがりました。

今日はわたしが男の子を犯してやる……という少々サディスティックな

気持ちになっていましたよ。



すっかり準備OKになっている性器を上げ、
緒太郎ちゃんの先端を膣口にあてがいます。
ぬちゅり、といやらしい感触が伝わってきて
わたしはそれだけでイキそうになりました。

「緒太郎ちゃん、
わたしが挿れるから
勝手に動いちゃだめよ」
少しづつ腰を落としていくと、
緒太郎ちゃんのカタいものが
ずぶずぶと挿ってきます。

今までわたしを犯したどの男よりも大っきい……。
少し痛いほどでしたが、類人豚の分泌液の効能もあって
その痛みはすぐに快感に変わりました。

「み、みゆいちゃん……ママよりすつこくきつくてもちいい……ぼくすぐ出ちやいそお……」
膣の中で、亀頭が膨れてカサが開いてくるのがわたしにもわかりました。
「だめよ、わたしがいいって言うまで射精しちやだめ……。がまんするのよ……」

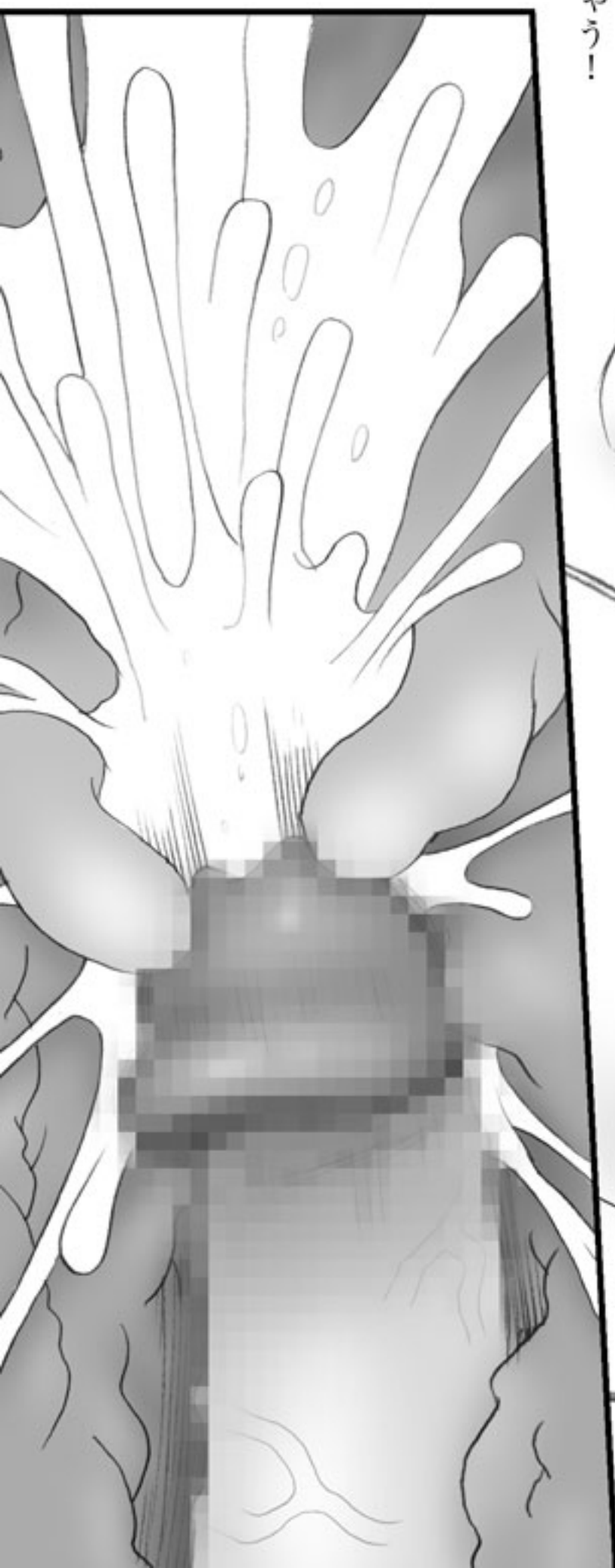
緒太郎ちゃんの上で腰を振ると
太い茎と大きく張り出したカサが
わたしの敏感な膣壁に擦れ、
想像以上の快感が走ります。
一番奥に届いた先端に子宮口を
叩かれて、わたしはすでに何度も
小さな絶頂に達していました。

「みゆいちゃんの中きもちいいよお……ぼく、出したい……出したい……つ」
緒太郎ちゃんは必死に射精を我慢しています。そのためか亀頭とカサが
収縮を繰り返して、わたしの膣肉にさらなる快感を与えてくれます。
「まだだめ……もうちょっと我慢して……」
わたしも……もうすぐイキそオ……」

十数回ほどの小さなエクスタシーを経て、
大きな絶頂が迫っているのがわかりました。
わたしは腰を動かすペースを上げ、夢中で緒太郎ちゃんのおちんちんを出し入れます。

「ああっああっもうだめえええぼく、ぼく、でちゃうー！
もうがまんできない、でちゃうよーっ！」
緒太郎ちゃんが必死の鳴き声を上げました。
わたしの中で彼の亀頭がぐんぐん膨張して
いきます。

「いいよ、出して！わたしの中にいっぱい
射精しなさい！あああ、わたしもいくう」
緒太郎ちゃんが「でるーっ！」と叫び、
わたしの膈内で爆発が起きました。
ものすごい量の精液が一気に放たれたのを感じ、
同時にわたしもすさまじい絶頂を迎えました。



それからわたしは毎日緒太郎ちゃんとセックスしました。
類人豚とのセックスはほんとうに気持ち良くて、わたしは夢中で緒太郎ちゃんを犯しまくりました。
緒太郎ちゃんは、お昼はわたしに、夜はママに、たくさん膣内射精ができて幸せそうでした。



ある日、近所でメス類人豚を飼っている人から連絡があり、緒太郎ちゃんに種付けをしてほしいと頼まれました。

プリレラちゃんは緒太郎ちゃんより少し年下の女の子ですが、類人豚のメスはこのぐらいの歳で一度妊娠出産をしないと健康によくはないのだそうです。彼女は類人豚らしくむっちりしていておっぱいがすごく大きくて、エッチな体をしています。

緒太郎ちゃんはプリレラちゃんを見たときものすごい勢いで勃起しました。あきらかにいつもより大きくなっています。びっくりしました。


類人豚同士の交尾はすさまじいものでした。
お互い夢中ですがみついて、必死に
腰を振り合っています。
白目をむき、よだれや鼻水を垂らし、
あまつさえおしっこやうんちまで
垂れ流しています。
気持ちよすぎて自律神経が
おかしくなっているようです。

緒太郎ちゃんがわたしやママとセックスするときの射精量は
1回100CCくらい、一日合計1リットルそこそこだと思えますが、
プリレラちゃんとの交尾では1時間足らずです。2〜3リットルは
出しているよう見えます。射精しながらものすごいスピードで
新しい精子を作り続けているのでしよう。

しばらくすると
プリレラちゃんのおっぱいから
母乳がびゆるびゆると
迸り始めました。
受精を果たした時に起こる
生理反応だそうです。


そして、二頭の若い類人豚が発する催淫臭はとてつもなく刺激的でした。その空気を吸っているだけで頭の中がまっピンクになり、愛液が溢れて内ももをだらだらと流れ落ちていくのがわかります。——
プリレラちゃんの飼い主のお兄さんも同様に息を荒らげていて我慢できなくなつたのかパンツを下ろして勃起したおちんちんをしごきはじめました。

わたしもたまらず、スカートの中に手を入れます。するとお兄さんが「美維ちゃん僕たちもセックスしよう……！」と言いました。わたしはなんの躊躇もなくうなずき、ぐっしよりになった下着をおろしました。



お兄さんのおちんちんはもちろん
緒太郎ちゃんより小さいですが、
すごくカタくなつていて力強そうに
見えました。仔豚ちゃんたちの淫らな
匂いにあてられて限界以上に勃起して
いるんだと思います。

それが勢いよく膣内に挿つてくると、
わたしは一瞬にしてエクスタシーに
達してしまいました。
お兄さんも、数回ピストン運動をした
だけであつという間に射精しました。



当然一回では終わらず、お兄さんはずっと勃起を保ちながら、激しく腰を振り、何度も何度も膣内射精を繰り返しています。わたしの方も、それこそおちんちんが一往復する毎に達し続け、ほとんどイキっぱなしの状態になっていました。類人豚同士のすさまじい交尾を見ながらセックスするのは、類人豚と直接セックスするのに匹敵する気持ちよさでした。わたしもお兄さんもまさにケダモノになったようにセックスし続けました。

※ちなみにわたしの卵子は間違いなく緒太郎ちゃんの精子を受精済みなので(人と豚なのでもちろん赤ちゃんは出来ません)人にいくら中出しされても妊娠することはありません。



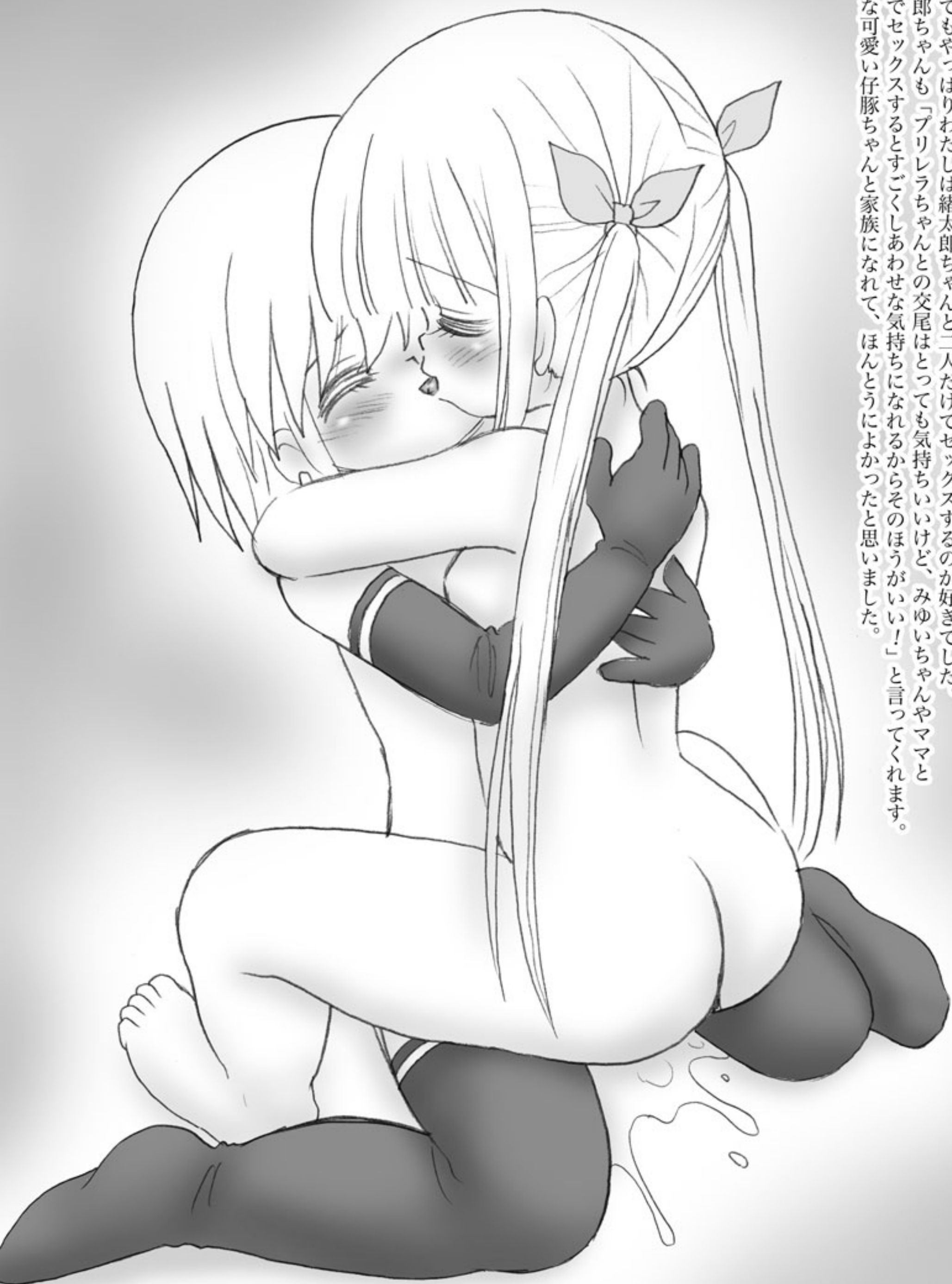
プリレラちゃんは無事妊娠しましたが、それからもわたしたちは時々集まってセックスするようになりました。緒太郎ちゃんとプリレラちゃんの交尾を見ながら、お兄さんとセックスするのも気持ちがいいですが、二頭が交尾している途中でプリレラちゃんと交代して緒太郎ちゃんとセックスするととんでもない気持ちよさになることを発見しました。

おちんちんが普通より大きく勃起している上に、動きもいつもより強烈で、さらに普段よりずっと大量の精液を子宮に叩きつけられて信じられないほど激しくイッてしまいます。

プリレラちゃんの交尾モードも、普段より気持ちいいとお兄さんは言っていました。
より多くの精液を絞り出そうと膣肉が激しく収縮し、膣壁の蠕動もいつもと全然違うそうです。
それと、類人豚の母乳はおいしくて栄養たっぷりな上に興奮剤のような成分も含まれていて、プリレラちゃんのミルクを吸わせてもらってセックスすると
快楽が倍加しました。
そうしてわたしたち4人は、かわるがわる何度も何度も力尽きるまでセックスし続けたのです。



それでもやっぱりわたしは緒太郎ちゃんと二人だけでセックスするのが好きでした。
緒太郎ちゃんも「プリレラちゃんとの交尾はとっても気持ちいいけど、みゆいちゃんやママと
二人でセックスするとすごくしあわせな気持ちになれるからそのほうがいい！」と言ってくれます。
こんな可愛い仔豚ちゃんと家族になれて、ほんとうによかったと思いました。



おかいあげありがとうございます♡
この作品は、前回発行した「既然物象
反収束事例」を描いた時に没になった
もうひとつのストーリーをもとにして
作ったものです。

設定や展開にところどころ共通のもの
があることにお気づきでしょうか(笑)

途中で登場したメス類人豚ちゃん→
は我ながらちょっと気に入ったので
いつかこの子をメインにした漫画を
描きたい気がしています。

そんなわけで
今後もおつきあいいただければ
さいわいです。

2012夏 みむだ良雑



連帯制御過知覚定律

発行日：2012年8月12日

著者：みむだ良雑

サークル：三村生恵

E-Mail：mimuda@microdat.rdy.jp

URL：http://microdat.rdy.jp

印刷：にじいろのもりADルーム様♡

※無断転載禁止

それが、みむだ良雑の遺作となった

プリレラちゃんが出産してしばらくセックスできなくなったとき、飼い主のお兄さんに頼まれて、豚ちゃんたち抜きでわたしとお兄さん二人きりでセックスしました。人間同士のふつうのセックスですごくまったりしましたが、年上のお兄さんにやさしく抱かれるのはけっこう嬉しかったです。



「人間の本物の女子小学生とセックスできて僕も嬉しい」とお兄さんは言いました。そういえばプリレラちゃんもランドセルを背負わされていたし、お兄さんは女子小学生に欲情するロリコンさんなのね♡

